

2025（令和7）年8月22日

「植物と鳥類の種子散布共生系」

大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻・教授
名波 哲

根付いたら動かない植物の中には、自身の子である種子を遠く広くばらまくために、鳥類の力を利用する種があります。種子が水分や栄養分を含む果肉に覆われた果実をつけ、鳥類に餌として提供します。堅い種子は鳥類の腹の中で消化されずに糞とともに排出され、親木から離れたさまざまな場所にたどり着きます。本講座には、果実の色に対する鳥類の好みという観点から、植物と鳥類の共生関係について、紹介します。



図.（左）イボタノキの黒い果実を食べるメジロ、（中）カナメモチの赤い果実を食べるツグミ（右）センダンの白い果実を食べるシロハラ。大阪公立大学附属植物園にて（撮影、名波）。